

平成 29 年度中国・四国地区国立大学法人等 技術職員マネジメント研究会報告

電気電子・情報系技術班 山本 隆人
化学・材料系技術班 本郷 友哉

主 催：国立大学法人山口大学
研修期間：平成 29 年 8 月 31 日（日）～9 月 1 日（火）
研修会場：山口大学常盤キャンパス

1. はじめに

本研究会は、全国の大学等における先進的技術組織の運用事例並びに、既に研究レベルで検討されている事務組織や図書館組織などの他業務領域の大学職員等研究事例を通して、技術職員の組織マネジメント能力の向上を図り、中国・四国地区における大学・高専の技術支援体制の機能化に資することを目的とした会であり、国立大学法人 9 機関、高等専門学校 13 機関から計 49 名の参加があった。本技術部からは 2 人が参加したので、研究会の内容について報告する。

2. 研究会の内容

2.1 1 日目

1 日目は全体講義として、株式会社フォーブレン稲好智子氏による「部下のマネジメント」研修が行われ、部下それぞれの性格や能力に応じたマネジメント方法や、誰にでも起こりうる問題への対応方法についてグループワークを交えながら学んでいった。

2.2 2 日目

2 日目は事例発表として、「社会・環境の変化を踏まえた研修のあり方」と題し、4 つの機関の代表者により、それぞれの技術職員組織で行われている研修内容について事例が紹介され、その内容について活発な質疑・応答が行われた。

3. 研究会に参加して

どの機関においても、技術職員が関わる業務内容は多岐にわたり、同じ組織・班内であっても各技術職員の業務内容がお互い異なることは珍しいことではない。ましてや、各技術職員の性格や能力、仕事に対する意識は千差万別である。であるがゆえに、誰に対しても効果的なマネジメント方法・研修内容というのは無いに等しいことを、今回の研修に参加することで認識することになってしまった。しかしながら、逆に言えば、特に部下のマネジメントに関しては画一的に行うべきものではなく、個々の能力・性格を考慮し、その場に応じて対応すべき事項であることを認識することもできた。今回の研究会の内容を、重要な教訓として、今後の部下へのマネジメントの参考としたい。



写真-1 会場の様子